岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　鞆松永線道路改良事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　道路　構造物基礎

ボーリング名	Boring No.14	調査位置	No.6+10.0 R-9.50	北緯	34° 23' 44.9753"
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 5月13日～ 令和2年 5月15日	東経	133° 22' 31.3767"
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 37.13m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	14.00m	地盤勾配	2° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦地下工機株式会社D1-C型
					エンジン：ヤンマーNFD-12型　ポンプ：東邦地下工機株式会社BG-3C型

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	記事	孔内水位／測定月日
	36.88	0.25	GL シルト混じり砂礫										
1			RY	流紋岩		w4	h4	E	V	d	DM	表土層。細砂及びφ2～5mm程度の亜角礫を主体とする。草木根含有する。 中生代白亜紀の流紋岩。岩相は凝灰質を呈す。地表部付近は風化の影響を受け脆弱化しているが、深度増加とともに新鮮となり硬質となる。	5/13 無L 5/14 1.10
2								D	IV		DH	GL-0.25～2.30m間、風化の影響を受け脆弱化している。DM級相当岩盤。	
3							h3	D	Ⅲ	c	CL		5/15 3.16
4													
5									Ⅱ			GL-2.30m～8.50m間、岩片状～短柱状コア主体となる。	日報記・（東田深発部長）
6						w3							
7								C	Ⅲ				
8									Ⅱ			GL-8.30m以深、硬質新鮮な短棒状コア主体となる。	
9									Ⅲ	b	CM		
10							h2	B	Ⅱ				
11						w2			Ⅲ				
12									Ⅱ				
13						w3		C	Ⅲ	c	CL	GL-12.85～13.00m間、亀裂間隔小さくなる。	
14	23.13	14.00							Ⅱ		CM	GL-13.00m以深、短棒状主体となる。	
15													

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
28	1.15	28	300	
	1.45			
50以	2.15	50	130	
	2.28	130		
50以	3.00	50	20	
	3.02	20		
50以	4.00	貫入不能		
50以	5.00	貫入不能		
50以	6.00	貫入不能		
50以	7.00	貫入不能		
50以	8.00	貫入不能		
50以	9.00	貫入不能		
50以	10.00	貫入不能		
50以	11.00	貫入不能		
50以	12.00	貫入不能		
50以	13.00	貫入不能		
50以	14.00	貫入不能		

原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度(cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧(MPa)	回転数(rpm)	送水圧(MPa)	削孔水・送水量(L/min)	排水量(L/min)
		5/13	200	66/ケーシング	打込み/打込みシュー	0	0	0	W10	0
				66/センケイング	D/MC	5	140			
			130		D/MC					
			120		D/DC	10	180	0	W5/5	5
				66						
		5/14								
			100			20	200	0	W5/5	5
		5/15								